

IV 大気の現況

1 大気汚染の状況

(1) 二酸化硫黄 (SO₂)

二酸化硫黄の発生源としては、工場等の事業活動に伴う化石燃料の燃焼や自動車からの排気ガスがあげられる。近年、低排出ガス車の導入やディーゼル車の排気ガス対策の進展により、年平均濃度は減少傾向にある。

環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること

①溶液導電率法による二酸化硫黄測定結果（令和4年度） (ppm)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
東部総合庁舎	最高	0.002	0.003	0.002	0.002	0.004	0.002	0.004	0.006	0.001	0.005	0.005	0.004	0.006
	平均	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000	0.002	0.002	0.002	0.001

※最高：各月の1時間値の最高値、平均：各月の日平均最高値

②溶液導電率法による二酸化硫黄測定結果（令和4年度）

区分	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均0.04ppmを超えた日数	環境基準の適否
	日	時間	ppm	時間	%	日	%	ppm	有× 無○	日	適○ 否×
東部総合庁舎	302	7361	0.001	0	0.0	0	0.0	0.006	○	0	○

③二酸化硫黄の経年変化（各年度の平均値） (ppm)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
東部総合庁舎	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001

※H29年度から東部総合庁舎で測定（H28年度以前は勤労青少年ホーム）

